vancouver 2010

バンクーバー・オリンピック

高木 大きな収穫

小平 再び入賞

ブスト金、田畑19位、吉井26位

スピード

スピードスケートは21日、女子1500㍍が行われ、小平奈緒（相沢病院）が1分58秒20で5位入賞を果たした。小平は1000㍍での5位に続く入賞。今回の五輪初登場の田畑真紀（ダイチ）は2分0秒12で19位、15歳の高木美帆（札内中3年）は2分1秒86で23位、500㍍5位の吉井小百合（日本電産サンキョー）は2分2秒26で26位だった。

▽女子1500㍍

①ブスト	（オランダ）	1分56秒89
②グローブス	（カナダ）	1分57秒14
③サブリコバ	（チェコ）	1分57秒96
④ブア	（オランダ）	1分58秒10
⑤小平奈緒	（相沢病院）	1分58秒20
⑥ネスビット	（カナダ）	1分58秒33
⑦ゲリットソン	（オランダ）	1分58秒46
⑧シホワ	（ロシア）	1分58秒54
⑲田畑真紀	（ダイチ）	2分0秒12
㉓高木美帆	（札内中）	2分1秒86
㉖吉井小百合	（日本電産サンキョー）	2分2秒26

充実感と悔しさ

高木 ソチ五輪へ意欲

イレイン・ブスト（オランダ）が1分56秒89でトリノ五輪の3000㍍に続く金メダルを獲得した。クリスティナ・グローブス（カナダ）が2位、3000㍍金メダルのマルティナ・サブリコバ（チェコ）が3位だった。

「持っている力は出し切った。悔いは残らなかったです」。得意の1500㍍を滑り終えた高木美帆（札内中）は客席に向かって何度も頭を下げた。笑顔は控えめだったが、完走選手中最下位に終わった1000㍍とは違う充実感がにじんだ。15歳の若さで迎えた初五輪、「いろいろなものを得たと思う。これからもっと頑張っていきたいという思いが強くなった」とうなずいた。

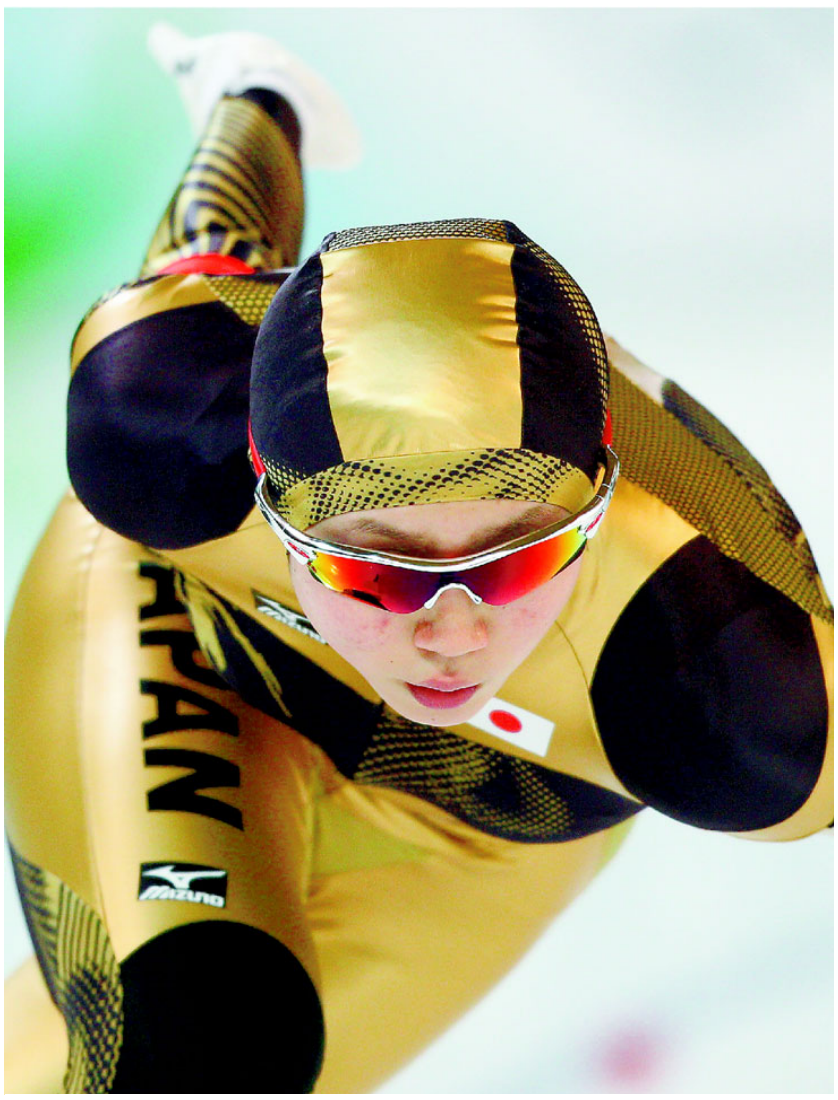
「飛ばしていく」と宣言していたが、スピードのある同走の米国選手につられることなく、自分のペースを守る冷静さがあった。「1000㍍は空気にのまれたけど、そこから自分なりに集中する感じをつかめた」という。先輩たちがレースに向けて集中を研ぎ澄ます姿勢を間近で見たのも勉強になっていた。

小学生時代から群を抜く速さを見せ、大会では転んでも立ち上がって滑って優勝したことさえある。目の肥えた十勝のスケート関係者も、『ものが違う』と早くから絶賛した。逸材と騒がれる娘に父・愛徳さんは「兄や姉がいたからあなたはスケートをやっている。指導してくれる人がスケートだけでなくサッカーも続けていいと理解してくれるから続けられるんだ」と諭してきた。

この数カ月で一躍日本中に名を知られるようになり、本人の意志とは関係なくメダル取りまで騒がれた。だが周りの目が劇的に変わっても、父が教えてくれた謙虚な姿勢を忘れたことはない。個人種目をすべて終え、「おじぎをしたのは応援してくれた人たちへの感謝の気持ちからです」と答えた。期待を背負って滑ることの意味も、五輪で初めて知った。

まだ中学生だから、という甘えはない。代表としてこの地に来た以上、23位に終わった結果も「自己ベストにも届いていない。自分の力不足です」と、しっかり受け止めている。4年後のソチ五輪は日本のエース格になるべき存在。高木にとって悔しさも、充実感も、何もかもが次へのステップになるはずだ。

（古川雄介）



スピードスケート女子1500㍍で力走する高木美帆＝21日、バンクーバー（時事）

4度目の五輪 無念の結果に

田畑、後半に失速

無念さがこみ上げてきた。4度目の五輪に臨んだ田畑は女子1500㍍で19位。「今回も悔しかった。これまで支えていただいた方々に申し訳ない」と目を赤くした。

ほぼ想定したペースで700㍍を通過した後、残り2周で失速した。「体調はすごく良かったけど、技術的に意識して良くなっていた部分が足りなかった」と振り返る。

長く日本女子の中長距離を支えてきた第一人者は、今回はこの種目に重点を置き、個人出場は1500だけ。昨年12月には4年ぶりに自己の日本記録を塗り替えるなど、コーナーワークを磨いて成長を続けてきた。それが無念の結果。「焦点を合わせてきたところで出せなかった。これが実力と言うか、仕方がない」と唇をかんだ。

伸び盛りで迎えるはずだった1998年長野五輪は不運な負傷で出場できなかった。この試練を糧に前進してきた35歳は言う。「悔しさをどこかでぶつけたい」。残るは団体追い抜き。前回トリノの4位を超えるメダルが目標になる。

スピードスケート女子1500㍍で力走する田畑真紀（時事）

新エースの誕生

小平 3位まで0秒24差

目の前の勝負に、ただ負けたくない。そう思ってここまできた。21日のバンクーバー五輪スピードスケート女子1500㍍で小平奈緒（23）＝相沢病院＝が1000㍍に続いて5位入賞を果たし、奮闘した。

3歳でスケートを始め、小学校から本格的に打ち込んだ。長野・伊那西高ではインターハイで実績を残し、信州大教育学部へ進学。学業との両立に悩みながらも、結城匡啓監督の綿密な指導で技術を伸ばした。

昨季は壁に当たった。ワールドカップ（W杯）序盤戦で転倒して左足首を故障。シーズン後半は日本代表から外された。しかし、氷に乗れない間も「絶対に強くなろう」。普段の歩き方から見直し、ウエートトレーニングに励む。どんな状況でも、スケートにプラスにしようと思った。

昨年10月。五輪シーズンの開幕戦、全日本距離別選手権でその才能が開花した。短距離選手として初めて3冠を達成。W杯と選考会でも奮闘し、五輪は500㍍、1000㍍、1500㍍の出場権を得た。

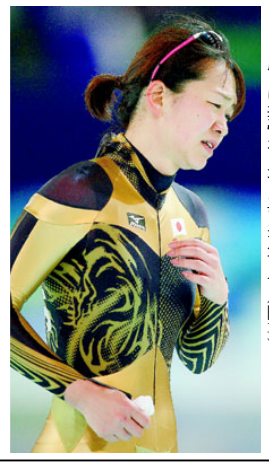
どの種目に重点を置くのかとの問いには、「全部です」と答える。どの種目でも、どんなレースでも負けたくない。16日の500㍍では12位に終わり、目を真っ赤に腫らしていた。

重圧に負けた五輪初レース。それでも、選手村で同室の岡崎朋美（富士急）がリラックスしている姿を見て、「自分らしく滑ればいい」と切り替えられた。そして、残る2種目の力走。五輪の大舞台で、女子の新エースが誕生した。

スピードスケート女子1500㍍を滑り終え、ガッツポーズする小平奈緒（時事）

いい経験できた

吉井小百合の話　（得意の）1000㍍で思うようにいかなかった分、自分の力を余すことなく出したかった。最後に脚にくるのは想定内だけど、悔いはない。今回の五輪にはいろいろな思いがあるが、いい経験ができてありがたかった。



スピードスケート女子1500㍍を滑り終え、厳しい表情を見せる吉井小百合（時事）

ミラー逆転V

男子複合 メダル3個目

アルペン

アルペンスキーは21日、男子スーパー複合を行い、ボード・ミラー（米国）が前半の滑降7位から、後半の回転で逆転し、合計タイム2分44秒92で五輪初の金メダルを獲得した。今大会三つ目のメダルで、通算メダル数もアルベルト・トンバ（イタリア）、ラッセ・チュース（ノルウェー）に並ぶ、男子アルペン歴代2位の5個とした。アルペンの米国勢は今大会メダル8個となった。

イビツァ・コステリッツ（クロアチア）が前半9位からトップと0・33秒差の2位に入り、前回の複合に続く銀メダル。シルバン・ツルブリッゲン（スイス）が3位。スーパー大回転との2冠を狙ったアクセルルント・スビンダル（ノルウェー）は滑降でリードしたが、回転で途中棄権した。

▽男子スーパー複合　①ボード・ミラー（米国）2分44秒92（滑降⑦1分53秒91、回転③51秒01）②コステリッツ（クロアチア）2分45秒25（⑨1分54秒20、⑥51秒05）③ツルブリッゲン（スイス）2分45秒32（⑥1分53秒88、⑩51秒44）④ヤンカ（スイス）2分45秒54（③1分53秒65、⑫51秒89）⑤リゲティ（米国）2分45秒82（⑮1分55秒06、①50秒76）⑥ライヒ（オーストリア）2分46秒13（⑫1分54秒70、⑨51秒43）⑦バンク（チェコ）2分46秒19（⑯1分55秒17、④51秒02）⑧インネルホファー（イタリア）2分46秒45（⑩1分54秒55、⑬51秒90）

アルペンスキー男子スーパー複合で優勝したボード・ミラー（米国）の回転の滑り＝21日、ウィスラー（ＡＦＰ＝時事）

引退撤回し悲願

ミラー

▽…23番目に滑った後半の回転でトップに立ち、残りを待つ。上位の最後となった29番スタート、前半滑降首位のスビンダルが途中棄権し、念願だった金メダルが決まった。表彰台に上がったミラーは、「信じられない。これからの人生の誇りだ」と喜びをかみしめた。

終盤に伸びを欠いた前半を終えて、トップと0・76秒差の7位。逆転を狙った後半が真骨頂の滑りだった。美しさも優雅さも排除し、攻撃的に、直線的に。少々フォームが乱れても気にしない。「ぎりぎりまでリスクをかけたよ」。強引に旗門をなぎ倒し、ゴールまで突き進んだ。

波瀾（はらん）万丈の人生だ。奔放な言動や行動はチームやコーチとの対立を招き、4年前のトリノは夜遊びを繰り返した揚げ句に、メダルなし。今季前には引退も真剣に考えた。「今までのオレはかんしゃく持ちで、それだけで疲弊していた」。32歳にしての改心。米国チームのリアリック監督は「正直、ジェットコースターに乗っているような気分だった」と苦笑いしたが、十分な恩返しになった。

国別メダル数

（第10日競技終了まで）

	金	銀	銅	計
米国	7	7	10	24
ドイツ	6	7	5	18
ノルウェー	5	3	4	12
スウェーデン	5	0	2	7
ロシア	4	4	1	9
韓国	4	4	1	9
オランダ	3	1	1	5
中国	3	1	1	5
オーストリア	3	3	2	8
スイス	2	3	3	8
カナダ	2	3	3	8
ロシア	1	2	4	7
フランス	1	1	1	3
豪州	1	1	1	3
チェコ	1	1	0	2
英国	1	0	0	1
ポーランド	1	0	3	4
ベラルーシ	1	0	2	3
ポルトガル	1	0	0	1
ライトビア	1	0	1	2
日本	0	0	3	3
ベラルーシ	0	0	2	2
クロアチア	0	0	1	1
ロベニア	0	0	1	1
エストニア	0	0	1	1
フィンランド	0	0	1	1
カザフスタン	0	0	1	1
計	50	51	49	150

（同順位があったため、各メダル数の合計は一致しない）